

平成29年度学校評価（自己評価書）

樟南高等学校

1 はじめに

少子高齢化が急速に進行する社会において、中学生やその保護者から通いたい・通わせたい学校として選ばれるには、学校の特色をどのように構築するかが急務である。過去9年間の評価を踏まえ、今年度は、「より特色のある学校づくり」という観点から、教育活動の成果や課題を明確化していきたい。

2 実施方法

今年度も引き続き、各部・学科・コース毎に年度当初に設定した評価項目について、それぞれの構成員が評価した。

評価者は管理職を除く本務職員96名。

3 実施期間

平成30年2月23日～3月13日

4 評価方法

(1) 評価の尺度：評価項目を5段階で評価する。

5： かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。

4： 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。

3： 普通である。

2： 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。

1： まったくできていない。

(2) 所見

よかった点や来年度の課題等を記述する。

5 結果報告

評価項目	評価者	評価結果	
		今年度	昨年度
校務分掌等の組織運営の改善	教務部	3	3
挨拶や服装等のマナーアップ	生徒指導部	3	4
個々の生徒理解と適切な支援	教育相談別室支援	4	4
生徒の能力・適性に応じた進路指導	進路指導部	4	4
難関大学への挑戦	特別進学指導部	4	4
募集定員確保のための組織運営	広報部	3	4
健康と安全の推進	保健部	4	3
トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底	環境整備部	4	4
図書館の利用促進～貸し出し本の増加	図書館部	4	3
窓口での接客対応の充実	事務部	5	5
上級資格への挑戦	商業科	3	4
基本的な生活習慣の確立	〃		
挨拶・服装指導の徹底	文理コース	4	4
積極的に授業に参加する態度の育成	英数コース	4	4
豊かな人間性の育成	未来創造コース	4	4
授業への集中力の養成	〃		
各種検定試験と資格取得への挑戦	機械工学コース	4	3
資格取得、検定試験への指導の充実	電気工学コース	3	4
三級整備士全員合格への挑戦	自動車工学コース	3	3
	平均	3.7	3.8

評価の尺度

- 5 : かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。
- 4 : 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。
- 3 : 普通である。
- 2 : 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。
- 1 : まったくできていない。

6 自己評価の総括

() 昨年度の評価

(1) 校務分掌等の組織運営の改善（教務部） 評価3（3）

一昨年度から大きな要項の引継だけでなく、各係で反省・引継を実施しているが、係によってはやるべき業務が順調に遂行されていないところもあり、一人一人が引継・連絡をしっかりとできる環境づくりがまだ不十分であったと反省している。

また、現在、紙媒体でのデータの連絡・保存が中心となっているので、デジタル化を推進しなくてはならない。そのためには、まず、分断化されている校内LANを一本化することが急務である。

更に、これからは、新入試・新教育課程へ対応しなければならない。アクティブラーニングへの取り組みを含め、校内外での研修の充実が必要である。新しいことを柔軟に受け入れる下地づくりを来年度の課題としたい。

(2) 挨拶や服装等のマナーアップ（生徒指導部） 評価3（4）

3年生の部活動生を中心に挨拶や服装もしっかりしていたのだが、3年生が自宅学習期間に入った頃から1・2年生の挨拶の状況が悪くなり、声が出ていない生徒や自ら率先してできていない生徒が目立つようになった。また、服装についてもだらしない生徒が増えつつある。特に、女子のスカート丈やソックスを上まで伸ばさない生徒が目立ってきている。

来年度は、女子指導の充実や全職員での声かけを徹底できるように、生徒指導部がリーダーシップを発揮できるよう努めたい。

(3) 個々の生徒理解と適切な支援（教育相談別室支援） 評価4（4）

3年生については、自分の目標や次のステップが見えてくるにつれて前向きな行動が見られ、様子も明るくなった。別室での支援希望については、2学期までは特に表面化していなかったが、3学期になって長期欠席者からの切迫した状況での希望の申し出が増え、ほとんどが承認されたものの、早めの対応があれば少しは早期改善が見込まれたのではないかと考える。

認定時の「言い渡し」の在り方や認定の期間などが今後の検討課題である。

(4) 生徒の能力・適性に応じた進路指導（進路指導部） 評価4（4）

本年度の求人数は、昨年度より120名の増加となり、売り手市場が続いている。就職者は、98名で、学校の紹介により82名、公務員11名（県警2名、県職1名、警視庁1名、自衛官7名）、縁故4名、自営業1名となり100%の内定率だった。各コース主任、担任を中心として生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導を進めることができた。

昨年同様、県内希望者が増加し57名、県外41名となっている。来年度についても世界経済や人手不足などの不透明感が続いており、早めの取り組みを

実施していきたい。

進学については、文理・英数を除き、国立大学1名、私立大学81名、短期大学21名、専門学校65名と概ね良好であった。ただし、推薦入試や看護系において基礎学力不足による不合格者もあり、推薦枠維持や進路希望実現のためにも学力向上の対策が必要である。

(5) 難関大学への挑戦（特別進学指導部） 評価4（4）

難関大学への挑戦者は数名出た。しかし、難関大学への挑戦というより難関学部（医・歯・薬・獣医）への挑戦の増加傾向が強く、浪人も辞さないという傾向があり、生徒の適性或学力を踏まえた進路指導が難しくなっている。文理コースからの東大1名、英数コースからの九大1名は対外的にも評価に値するが、上述の希望傾向を踏まえると、1・2年時からの基礎学力養成に加えてキャリアガイダンスや面談指導等が大変重要であり、来年度は特進部会の中でも、このことを共通に意識していく必要がある。

(6) 募集定員確保のための組織運営（広報部） 評価3（4）

今年度は入試において、部活動奨学生数の縮減や学力奨学生のライン引き上げ等の実施により受検者数が減少し、定員の確保が懸念されたが、全職員の指導のおかげで定員を超える418名の入学者を確保できた。

課題として、体験入学者の名簿や入試処理等でミスが見られた。来年度は見直し確認等チェック体制をより確立したい。また、広報活動についても、効果的かつ効果的な活動となるよう教職員全員の協力をお願いしたい。

(7) 健康と安全の推進（保健部） 評価4（3）

定期健康診断は教科担任などの協力で計画通り実施できた。学校保健委員会に向けて、生徒の睡眠や欠食状況、スマートフォンの使用時間などの生活習慣について調査を行い、以後の指導に有効であった。

心肺蘇生法の講習会を実施したことで生徒の命に対する意識が変わった。反省点としては、検尿検査への取り組みが悪かったことやインフルエンザ対策として教室の換気や手洗い・うがいが不十分だったことが挙げられる。

また、課題として、メンタルサポートを必要とする生徒が増加しているので担任やクオリティルームとの連携を蜜にして行きたい。

(8) トイレ・階段・特別清掃区域の清掃の徹底（環境整備部） 評価4（4）

環境整備としては、学校の美化・営繕に力を注いだ一年であった。特に、学級から出るゴミの分別に注意を払った。トイレ・階段・特別清掃区域においては、担任・副担任の先生方の指導により自覚を持って取りかかってもらった。

美化週間に於いては、美化コンクールを行い学級の美化に努力してもらった。

二学期終了時のワックス掛けは、部活動生の協力によりしっかりできた。来年度も、全員が環境整備に携わる気持ちになれるよう職員間の連携を図りたい。

(9) 図書館の利用促進～貸し出し本の増加（図書館） 評価4（3）

昼食時の利用者が増えた。全科・コースの生徒が利用しており、憩いの場として活用されているように感じる。2回の読書週間の実施に加え、教育相談期間にも本を読む機会が増えたこともあり、自主的に本を借りる生徒が多くなった。朝読書の通年実施を希望する声も聞こえるようになっている。

今後は、進学・就職に対応できる参考書や本の充実を図りたい。

(10) 窓口での接客対応の充実（事務部） 評価5（5）

事務室は学校の窓口であるという意識で、来訪者への挨拶、対応、言葉遣い等に誠意を持って取り組んできており、接客業務は充実している。

一方、来訪者が約束の時間に来られても教職員の所在がはっきりせずに連絡がつかないことがある。かなり改善されてきたが、事前に事務室へ所在を連絡することを徹底したい。

(11) 上級資格への挑戦並びに基本的な生活習慣の徹底（商業科） 評価3（4）

① 上級資格への挑戦

検定の上級資格に向けて、目的意識を持って取り組んだ生徒はそれなりの成果を挙げた。各学年、日商簿記検定2級や、秘書実務検定2級の上級の資格に挑戦し合格する生徒がいたことは良かった。1年生は、各種検定試験に意欲的に取り組み、全商電卓検定1級にも多くの合格者が出た。2年生では全商簿記会計1級に昨年より多くの生徒が合格した。3年生では、上級資格の成果として、最近力を入れている「日本情報処理検定協会」の3種目以上1級取得も昨年並みに多く、また、昨年から導入した「医療事務」の検定合格も昨年以上の結果を出してくれた。

② 基本的な生活習慣の徹底

基本的な生活習慣の確立については、一部の生徒の服装が悪い。服装検査の際や注意した時はきちんとできるが、すぐ元に戻る。正しい着装は理解しているが正しく着装しようという意識がない。これは、教師側の声掛け不足や指導の不徹底の現れかと思うので、教える側が意識を変えて生徒を育てたい。生徒の実態把握に時間がかかった分、指導が遅れたという状況もあるので、全職員で協力して早めの指導を心掛け、より良い商業科にしていきたい。

(12) 服装、挨拶指導の徹底（文理コース） 評価4（4）

生活面の指導の強化を学力向上に繋げようと努力を続けている。挨拶については、声を出しての挨拶や始業時の挨拶は良くなっているものの、初対面の相手や登下校時の挨拶など、コースを離れたところでの挨拶が不十分であり、指摘をうけることもあった。服装の着こなしは、概ね良好と思われるが、頭髪や爪など容儀面全般に目を向けると、継続した細かな指導の必要性が感じられる。難関大学合格の実績とともに生活面とのバランスのとれた指導に努めたい。

(13) 積極的な授業参加への態度の育成（英数コース） 評価4（4）

新学習指導要領への動向をふまえ、アクティブラーニング導入やペアワーク等、生徒に積極的に発問させたり、様々なエピソードや身近な具体事例を取り上げて、授業へ積極的に参加する態度の育成に努めた。その結果、以前よりも興味・関心をもって授業に臨み、態度も良好であった。また、進路実現への意識が高い生徒、目標を持ち更なる努力をする生徒も多い。

一方、授業開始、朝補習への遅刻など、時間への厳しさや提出物の厳守、休み時間などの使い方を指導していかなければならない生徒もいる。各授業の目標を明確に生徒に示すとともに、家庭での学習量が授業態度にも影響するので根気強く指導し、精神面でのサポートの必要性がある生徒にも、的確にアドバイスをしていきたい。

(14) 豊かな人間性の育成・授業への集中力の養成（未来創造コース）

評価4（4）

「豊かな人間性の育成」においては、コース独自の様々な取り組みも多く、一定の効果が得られた。「未来塾」と題した講演会は2回実施し、特に今年度は「命」をめぐる講話をいただき、生徒の心の育成に役立てられた。3年目となる市内45か所での「職場体験学習」（2年）をはじめ、スピーチコンテスト、スキットコンテスト、フラワーアレンジメント教室、手紙の書き方講座、新聞記者による講演や新聞社見学などコース独自の各行事も定着しており、生徒も積極的に取り組んでいた。毎朝の新聞コラム配布や毎週の「コースだより」発行など、豊かな人間性の育成に効果のある取り組みも続けることができた。

「授業への集中力の養成」については、単調な授業にならないよう、グループ活動を取り入れたり、視聴覚教材を活用するなどの工夫を行った。集中力がなかなか続かない生徒がいたり、各個人の集中度の差が大きかったりして、対応に苦慮する場面も多かった。主要教科では「習熟度別」の授業も実施している。学習意欲が低下している生徒や、苦手意識のある教科について意欲が低下している生徒が見られ、そうした生徒の導きを今後も工夫していきたい。また、必要な課題に取り組まずに「なんとかなる」と安易に考えている生徒が増えており、適正な指導、適切な対応が求められていると感じた。

(15) 各種検定試験と資格取得への挑戦（機械工学コース） 評価4（3）

昨年度認定者が出なかった全国工業高校ジュニアマイスターで「ゴールド」「シルバー」に3名の生徒が認定された。資格によっては、他県まで出かけて受検する生徒や航空無線通信士、航空特殊無線に挑戦し、合格する生徒も出た。2年生では、部活動生も意欲的であり、前進していると感じている。また、1年生については、県のマイスターを2名が取得、2年生より取り組みが良く、来年度も楽しみである。

(16) 資格取得、検定試験への指導の充実（電気工学コース） 評価3（4）

全国工業高校ジュニアマイスター「ゴールド」を3年生2名、「シルバー」を3年生3名、2年生2名の計5名、県のマイスターを2・3年生が各1名取得した。また、第2種電気工事士には3年生が3名、2年生が8名と合格者が増加した。

上級資格に挑戦して合格する生徒が増えている一方で、資格取得への意欲が低い生徒もいる。学級や受験者全員で取り組む意識を持たせるとともに、指導方法の更なる工夫・研究も行いたい。また、資格の種類によっても生徒の取り組みに差があり、より多くの生徒が資格取得に興味・関心を持つように、取得を目指す資格の再検討も行いたい。

(17) 三級自動車整備士全員合格への挑戦（自動車工学コース） 評価3（3）

全国工業高校ジュニアマイスターを「ゴールド」1名、「シルバー」2名、県のマイスターを1名、危険物取扱者乙種全種類を1名、ボイラー技士、第2種電気工事士も各1名が取得した。三級自動車整備士には、ガソリンエンジンの合格は、合格率58%（全国57.2%）。ディーゼルエンジンは合格率50%（全国59%）とほぼ、全国平均であった。職場体験で整備士への意識を醸成しているため、全員合格という目標達成のため、日頃の授業や教材を更に研究し、専門的な知識の定着を目指して1年から段階的に指導していきたい。

7 まとめ

本年度の教育目標には、以下の4点が掲げられている。

- (1) 建学の精神「博文約礼」と、校訓「進取 友愛 誠実」の具現化を図る学校づくりに努める。
- (2) 確かな学力の定着とたくましい生活力の育成を基盤に、生徒の進路希望実現を支援する。
- (3) それぞれの科・コースの違いを認めながら切磋琢磨することにより、魅力的な総合高校づくりに取り組む。
- (4) 常に私学の教職員という原点を意識し、生徒・保護者、卒業生に誠実に関わっていく。

さらに、教育目標を実現するための努力目標を次の9点定め、本年度の教育の指針とした。①風格ある学校づくり ②学習意欲の喚起と確かな学力の向上 ③文武両道への挑戦 ④資格取得への挑戦 ⑤進路指導の充実 ⑥適正な健康管理と体力向上 ⑦教育環境の整備、充実、美化 ⑧国際理解とボランティア活動の奨励 ⑨広報活動の充実

この9点の観点により、本年度の教育活動の総括をしたい。

努力目標の①は「風格ある学校づくり」である。生徒指導部が挨拶・服装のマナーアップを目標に掲げ、普通科の各コースで豊かな人間性の育成や挨拶・服装指導の徹底等に取り組んできた。商業科の基本的な生活習慣の確立についての反省にあるように、大多数の生徒が確立しているものの、一部に、検査時や注意を受けた時のみの者があり、校外で服装が乱れていたり、整髪や挨拶に前向きに取り組む意欲の薄い生徒も見られたりする。女子駅伝部の挨拶が他の生徒たちへ好影響を与え、きちんと止まって挨拶をする生徒が増えているので、文武両道を機軸にしている本校の部活動生全員が、他の生徒たちの模範として風格ある校風の醸成に貢献してほしい。このことが入学希望者の増加に直接影響する重大な要因の一つであることを自覚させるために教師のたゆまぬ声かけが重要である。

不登校生については、「個々の生徒理解と適切な支援」を評価項目に挙げ、教育相談係を中心に取り組んできた。別室（クオリティルーム）でのきめ細かな指導により、次のステップへの目標設定ができた3年生に前向きな行動が見られるとともに表情も明るくなるなど評価に値する成果もある。長期欠席が予測される場合は、学年後半になってからの対応にならないよう早めにきめ細かな相談態勢を構築することが必要である。また、クオリティルームでの学力向上対策が不十分なので、担任や教科担任との連携を更に深め、将来の目標を構築させるとともに、本来の目標である教室復帰の早期実現を図りたい。

②の「学習意欲の喚起と確かな学力の向上」については、未来創造コースが「授業への集中力の養成」を評価項目に挙げ、授業にグループ活動など動きを取り入れたり、視聴覚教材を活用したりするなどの工夫を行っている。また、英数コースでは「積極的に授業に参加する態度の育成」を目標に、アクティブラーニングの導入を視野に入れたペアワークやグループでの活動をベースに授業への積極的参加に取り組んだ。部活動と両立させての念願の九州大学合格は評価に値する。今後は、部活動や生徒会活動との両立を目指す生徒の増加も予測されるので、1年次からの学習習慣の確立を大命題とし、早期の目標設定をさせるとともに、シラバスを活用させるなど、生徒が自ら計画的に学習するよう習慣づけるための研修などを実施したい。また、昨年の実績となっている商業科からの国立大学進学を、今後の商業科が目指すべき指針の一つとしたい。

③の「文武両道への挑戦」については、②で述べた事柄に加えて、商業科や工業科に於いても、資格取得を念頭に、部活動との両立が図られている。近年競技力の高い生徒の進学コースへの希望が増加しているので、両立のために部活動の顧問と担任や教科担任との連携を基に組織的な取り組みが必要である。

④の「資格取得への挑戦」については、商業科では、ほとんどの生徒が上級

資格取得に意欲的に取り組み、日商簿記2級や秘書実務検定2級など上級資格に挑戦し合格者が出たことはこれからの目標設定にきわめて有効である。全学年において各種検定に意欲的に取り組み、すべての検定で昨年以上の成果をあげており、情報処理検定の3種目以上1級取得や新たな取り組みの医療事務検定の昨年以上の実績は大いに評価できる。モチベーションが持続しない生徒や理解度の差に対応する補習等によりさらなる意欲の向上を図りたい。

工業科においても、各種の資格や検定取得に取り組み、機械工学コースでは、全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度で「ゴールド」や「シルバー」取得の実績をあげ、航空無線通信士などに挑戦する生徒が出るなど、1年生の目標設定や取り組む姿勢に好影響を与えている。今後も、3年間を見通した意識の醸成に努めるとともに、模擬問題による錬成や特別補習等によりレベルアップを図るよう更なる努力が重要である。

電気工学コースでも、ジュニアマイスター、県のマイスターや第二種電気工事士において取得者が増加した。今後も、この実績を踏まえ、上級資格への更なる挑戦者の育成とともに、意欲不足の生徒への意識向上対策を講じて、その実績を中学校へのアピール要素としたい。

自動車工学コースでは、整備士以外にも資格取得に実績を挙げた。ジュニアマイスターで、「ゴールド」1名、「シルバー」2名、危険物取扱者乙種全種取得1名、ボイラー技士・第2種電気工事士各1名は評価に値する。今後は、職場体験などにより醸成された整備士への意欲を具現化できるよう、補習等により基礎力を定着させ合格者を更に増やしたい。

⑤の「進路指導の充実、強化」については、進路指導部が「生徒の能力・適正に応じた進路指導」を、特別進学指導部が「難関大学への挑戦」をそれぞれ評価項目に掲げた。就職については、普通・商業・工業の全科で希望者98名が全員内定を達成した。進学については、国立大1名、私立大学81名、短期大学21名、専門学校65名が合格している。

特別進学部については、東京大学現役合格を始め、医・歯・薬学部を含む難関大学の合格者が2桁に伸び、文理、英数両コースの国公立大合格者は70名となった。昨年より24ポイントの減少となったが、医・歯・薬系の希望者増を含め、希望と学力のギャップに苦しむ結果に終わる者も少なくないので、真の学力養成の努力を継続させることが重要である。英数コースについては、部活動奨学生で国公立大志望者が増加している。1年次から志望する大学の難易度を掌握し、バランスのとれた基礎力の定着が根本であるという意識の醸成が不可欠である。そのためには、高校の学習態勢を構築するための生徒の具体的な研修などに取り組む必要があり、AO制度の研究と併せて鹿大医学部の地域枠など国公立大学推薦入学制度への対応策構築も急務である。

⑥の「適正な健康管理と体力向上」については、インフルエンザへの対策の具体的実践が不十分であった。感染性胃腸炎などの流行防止についても、各教室のみならず、寮での基本的生活習慣を確立させて、健康管理に努めさせたい。

また、学校保健委員会での校医の先生方のご指導のもと、性教育や薬物乱用に関する講演会等も計画的に実施されたことが、生徒の健康に関する意識の高揚に貢献している。不登校やその傾向にある生徒が増加傾向にあり、メンタルサポートが必要と思われる生徒や保護者も多くなっている。クオリティルームとの連携をより密にして生徒たちが楽しく学べる環境づくりに努めたい。

定期検診の欠席者も散見されるので、保護者との連携により心身の健康管理の重要性を認識させることが重要である。

⑦の「教育環境の整備、充実、美化」については、美化コンクールを実施して意識の高揚を図った。また、様々な行事前には正副担任協力のもと全体で取り組み清掃の徹底が図られた。清掃時間の各学級の清掃については、担任などの指導監督状況に差があり今後の課題となっている。生徒が全員で美化に取り組む意識を構築するには、職員間の連携による共通実践が不可欠である。

⑧の「国際理解とボランティア活動の奨励」については、平成元年に始まった特別養護老人ホームでの女子ボランティア活動や追隨して数年前から行っている同施設での工業科の車いす修理、マックスバリュー武岡店への木製ベンチや季節の花のプランターとその台の提供、更には、考査後、学校周辺の清掃活動を行う男子ボランティア活動などすばらしい活動が展開されている。今後も思いやりの心の育成に努めることが重要である。

最後の⑨の「広報活動の充実」については、広報部が「募集定員確保のための組織運営」を項目に掲げ、部内の活性化を図るとともに全職員の努力を結集することにより定員を38名超える入学者を確保できたことは評価に値する。来校する中学生、PTAへの案内や中高連絡会などでのアピールなど広報活動の重要性は論を待たない。今後とも、中学校担当者だけでなく、全職員が中学生や保護者のニーズを把握し、時宜を得た速報を提供するとともに、改善すべき点は積極的に改善するなどの具体策を素早く講じることが重要である。

本校は、国公立大を目指す文理・英数コースを始め、未来創造コースには進学を、商業科や工業科には就職を軸に、入学者や保護者などから多大なる期待が寄せられている。

今、高校教育は、高大接続改革を中心に大きな転換期にさしかかっている。30年度の入学生から対象になる、センター試験に代わる「大学入学共通テスト」では、思考力や表現力をも重視して国語や数学で記述式問題が追加される。英語については、「読む」「聞く」に加え、「書く」「話す」技能を測るため、民間の検定等が活用される。更に、AO・推薦選抜、各大学の個別選抜の見直しや

調査書等の書式の変更など、進路指導の在り方が大きく変わる。また、高校生の学力向上に向けては、新たに「高校生のための学びの基礎診断」という基礎学力測定検査が導入され、その結果を踏まえて学力向上に向けた取り組みを組織的に進めることになる。これらを踏まえ、時間や情報が十分ない中で準備を進めなければならない。

進学については、これまでの国公立大への進学実績を礎に、特に、1年生に対して文理・英数コース独自の大学入試改革を踏まえた高校での学習法の研修を行うことにより、早期の目標設定や教科バランスの維持を図り、新たな流れを取り込んで合格者の倍増を目指したい。未来創造コースでは、新聞活用や習熟度別授業の実施とともに、スキットコンテストやスピーチコンテストなどに加えて、職場体験や未来塾と多彩で充実した取り組みがなされている。総合的な学習の時間を活用した国際文化理解にもグローバル化という観点から期待している。今後は、商業科や工業科とも連携しながら、更に教育内容・方法のリニューアルを図り、新たな AO 制度を活用しての国公立大学や公務員への道を構築するなど、多様化する生徒や保護者のニーズを把握しながら、それらに十二分に応えてくれる学校という社会的評価を確立したい。そのためには、教職員主導により、在校生全員が「がんばれば感動」というモットーの具現者になることが大前提である。生徒により多くの感動を与え、誰もが通いたくなる名門校の創造を目指し、全職員による共通実践を継続することが重要である。